



2019/3/25  
川廷 昌弘  
「山さ、ございん」  
「海さ、ございん」  
プロジェクト実行委員

# 南三陸町は世界初のFSCとASCのダブル認証取得



8 働きがいも  
経済成長も



17 パートナーシップで  
目標を達成しよう



MASAHIRO KAWATEI  
PHOTOGRAPHY

# 宮城県本吉郡南三陸町戸倉の紹介

## ・南三陸町戸倉地区

南三陸町は宮城県の北東部に位置し  
目の前には「志津川湾」が広がる  
沿岸部一帯はリアス式海岸特有の  
鋸の刃のように入り組んだ地形である

## ・人口

1,417人（H30.6月末現在）  
震災前は2,400人

## ・観光

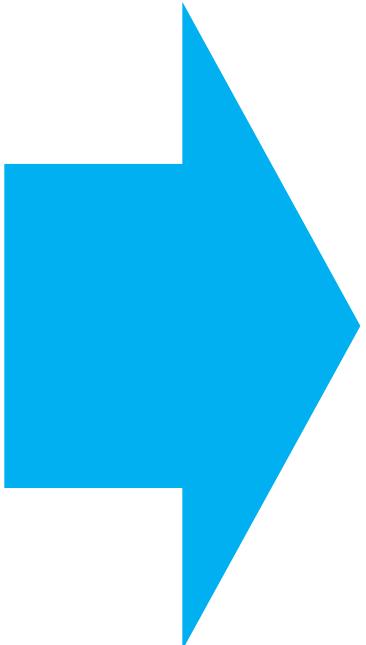
神割崎を始めとした自然豊かな観光名所があり  
本格的な海洋研修を行える志津川自然の家や  
環境省のビジタセンターが運営されている



# 今後の課題と展望

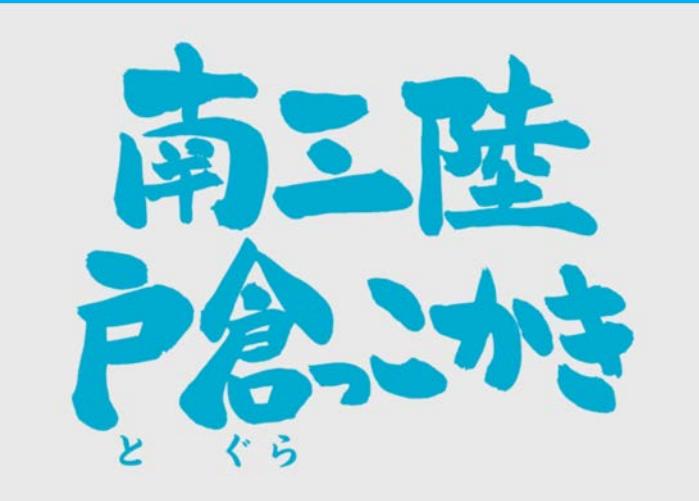
## 課題

「南三陸戸倉っこかき」  
の知名度が低い



## 展望 1

- ・「南三陸戸倉っこかき」  
ブランド力アップに向けて販路の開拓とPR



ブランドロゴ使用の徹底



## 展望 2

- ・戸倉地区の養殖業の高品質化  
他の養殖種のASC認証取得を目指す

銳意製作中

# 海さ、ございん

南三陸の海の幸の良さを活かし  
未来につながる産業振興の筋道をつけていく  
そのためのストーリー発信のプラットフォームとなり  
森里海連環の物語を海から始める  
そして、南三陸の海の恵みの発信ファンづくりを目指し  
全国の人に来てもらう機会を考え取り組みます。

## 南三陸「山・里・川・海の連環」

南三陸の人々のいとなみは、山・里・川・海のつながりの環の中にあります。この町に降り注ぐほぼすべての雨が山のいただきから川を伝って志津川湾に流れ込み、海を豊かにし、海から吹くミネラルを多く含んだ風が、山の木々を育てています。こうした連続性の中で南三陸の人々の暮らしが維持されてきたことを確かめながら、その豊かさを損ねることなく次の世代に継承したい。それが「海さ、ございん」プロジェクトの願いでもあります。



## 「南三陸戸倉っこかき」の名前の由来

「ふるさとを知り、ふるさとを愛し、ふるさとを創る子どもたちの育成」を合い言葉に、戸倉小学校は長年、宮城県の「ふるさと教育」の研究指定校として、取り組んできました。この精神が地域と学校の結びつきを固いものにし、当時の子ども達は保護者となって地域を支える人材となっています。戸倉の子どもたち、「戸倉っこ」。未来を担うこの牡蠣にもそんな想いを託して名付けました。



# 海さ、ございん

<https://umisagozain.com>



「海さ、ございん」プロジェクト実行委員会

〒986-0781 宮城県本吉郡南三陸町戸倉字津の宮1

<お問い合わせ> 漁業協同組合戸倉出張所（電話：0226-46-9211）

## 南三陸戸倉っこかきツアー

### 養殖現場の体験ができる！

牡蠣剥きや漁場現場の見学・体験など、様々なプログラムをご用意しております。  
実施時期やプログラムの詳細は漁業協同組合までお問い合わせください。

お問い合わせ：0226-46-9211



牡蠣漁師さんによる  
牡蠣づくしランチ



「南三陸戸倉っこかき」の  
養殖現場の体験

## 食べられる場所・買える場所

最新の情報は、「海さ、ございん」のホームページでご覧いただけます。 ●食べられる ●買える



### ちょこっと

TEL.0226-28-9702  
南三陸町戸倉字底土53-4



### たみこの海パック

TEL.0226-46-9661  
<https://www.tamipack.jp>



### 農漁家レストラン 慶明丸

TEL.0226-46-9374  
南三陸町戸倉波伝谷57



### 後藤海産

TEL.0226-46-9737  
南三陸町戸倉字宮9-2



### カネキ吉田商店

TEL.0120-483-747  
南三陸町志津川字大森町54



### 丸壽阿部商店

TEL.0226-36-2300  
南三陸町歌津字田ノ頭3



### 神割崎キャンプ場

TEL.0226-46-9221  
南三陸町戸倉字浜81-23



### 御宿 あおしま

TEL.0226-46-9755  
南三陸町戸倉合羽沢68-19



ミックス  
責任ある水質資源を  
使用した紙

FSC® C114747

Photo : Masahiro Kawatei(JPS)  
Design : Yasuhiro Ichikawa(bondō)  
制作 : CEPA JAPAN

南三陸を海から動かすプロジェクト

# 海さ、ございん



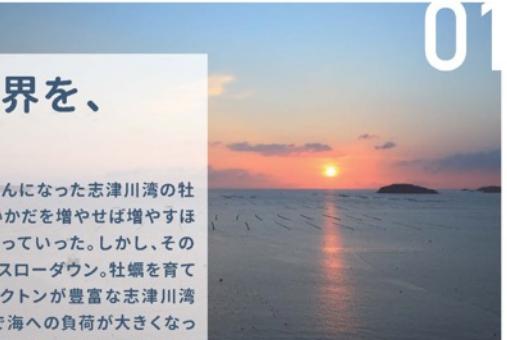
## 戸倉、幸せの牡蠣

銳意製作中

「南三陸戸倉っこかき」は、経済を維持しながら、環境と社会の質を高めることに努めた結果、2016年、日本国内で初めて「責任ある養殖により生産された水産物」として、ASC認証を取得しました。きっかけは、志津川湾の漁師たちが、海にも限界がある、ということを知ったことからでした。

### 海の限界を、 知る。

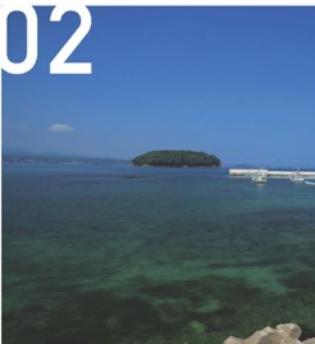
1960年代から盛んになった志津川湾の牡蠣養殖。養殖のいかだを増やせば増やすほど生産量は上がっていった。しかし、その後牡蠣の成長はスローダウン。牡蠣を育てる植物性プランクトンが豊富な志津川湾も、過度な養殖で海への負荷が大きくなってしまったのだ。牡蠣のタネを入れてから出荷までの期間が1年から2年、3年と伸び、漁師たちは海の限界を目の当たりにした。



01

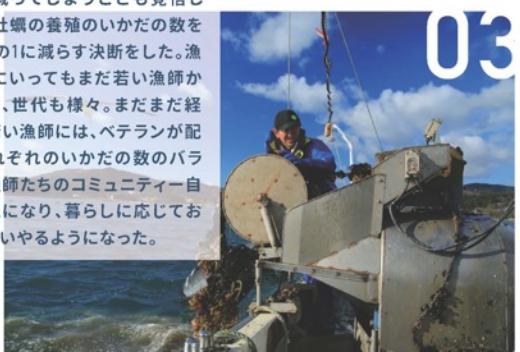
### 100年先も、 続けられる漁をしよう。

2011年3月11日、東日本大震災。南三陸も津波に襲われ、そこにあった暮らしは、何かもなくなってしまった。全て流されてしまったけれど、幸か不幸か海は元に戻った。牡蠣の養殖が盛んになる前の海に。牡蠣の養殖を生業としていた34人の漁師たちは、あらためて海と、そしてお互いと膝を付け合わせ、語り合った。これから目指すべきは、自分たちの次の世代も、その次も、ずっとずっと続けられる牡蠣養殖だと。



決断。

収入が大幅に減ってしまうことも覚悟して、漁師たちは牡蠣の養殖のいかだの数をこれまでの3分の1に減らす決断をした。漁師とひとくりにいってもまだ若い漁師からベテランまで、世代も様々。まだまだ経済力が必要な若い漁師には、ベテランが配慮してくれ、それぞれのいかだの数のバランスをとった。漁師たちのコミュニティー 자체がひとつ大人になり、暮らしに応じてお互いの経済を思いやるようになった。



03

### のびのびと育つ牡蠣。

生産量を減らしたことで、牡蠣の海での暮らしが穏やかになった。すると、これまで2~3年かかっていた出荷までの時間が1年に短縮できるほどの成長を見せたのだ。栄養と酸素が十分に行き渡り、適正な生産密度で生産できるようになったから。さらに、漁師たちは、養殖によるプランクトンの消費量を算出するなどの海水成分調査をしたり、養殖に必要な燃料の消費量を一定量に抑えるなど、共通ルールを設定したりして、牡蠣がのびのびと暮らせる環境を整えていった。



04



### 牡蠣は牡蠣らしく、 人はより人らしく、暮らす。

のびのびと育つ牡蠣は、とてもおいしく育つようになった。漁師たちは、牡蠣と対話しながら、手塩にかけて育てることで、誇りをもって牡蠣を送り出すことができるようだ。管理するいかだの数も以前より少なくなったことで、暮らしに余裕が生まれ、家族や地域と関わる時間が増え、豊かな時間を過ごせるようになった。

今、南三陸の漁師たちは、地域で誇りを持つ仕事をしながら、日々豊かに暮らしている。そんな漁師たちに育てられ、牡蠣たちも、幸せに過ごしている。

### 「南三陸戸倉っこかき」と「ASC認証」



持続可能な養殖業に与えられる国際的なエコラベル認証  
「ASC認証」を日本で初めて取得しました。

### 海の国際認証ASCって何？

将来世代になんでも海洋資源を使い続けられるように、持続可能な基準・方法で養殖場を守りながらも、今の時代のわたしたちにも海産物の恵みを受けられるように継続して養殖場を管理していくことの証明です。

2016年3月30日、宮城県漁業協同組合志津川支所の戸倉出張所が手掛けけるカキ養殖が、日本では初めてとなるASC(水産養殖管理協議会)の漁業認証を取得しました。

ASC認証は、環境や地域社会に配慮した養殖業だけが取得できる国際的な認証で、WWFも海洋保全活動の一環として、その普及に努めてきました。今回の認証取得は、東日本大震災の津波被害により、壊滅的な打撃を受けた南三陸の漁業を復興させる取り組みの一環として、同出張所が目指してきたもので、海の自然に配慮した養殖の実現に向けた新たな試みです。

### 南三陸町ASC(二枚目) チェックリスト

ASC認証は、  
①自然環境や資源を持続可能な状態で利用しているか ②養殖漁場からの環境負荷を軽減しているか ③労働環境や地域社会に配慮して運営されているか  
の3つのポイントにより審査が行われます。



1  
法令順守



2  
自然環境および  
生物多様性への悪影響の軽減



3  
天然個体群への影響



4  
病害虫の管理と  
食害防止



5  
資源の効率的な利用



6  
地域社会に対する  
責任



7  
適切な労働環境